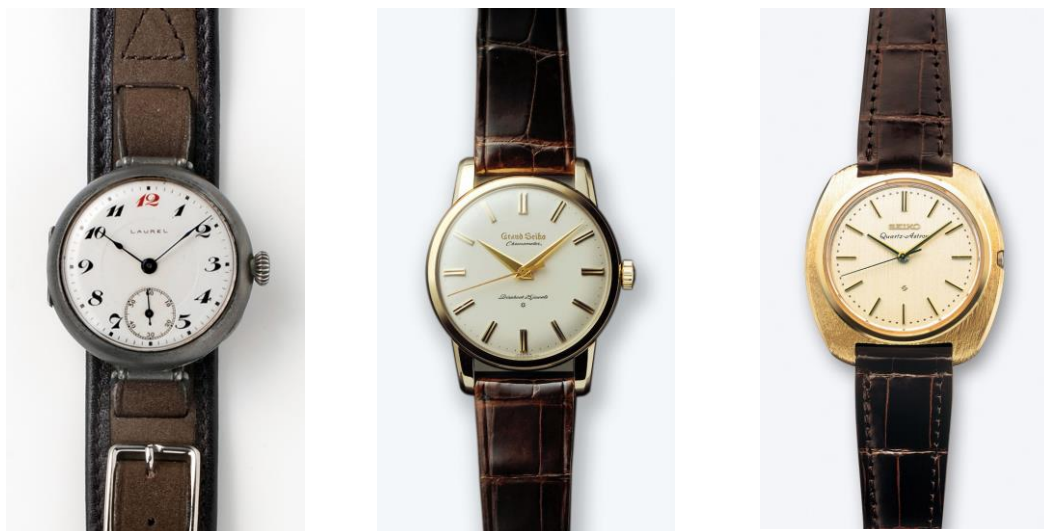


セイコーミュージアム所蔵の「セイコー国産腕時計 3点」が 2014年度「機械遺産」に選定

セイコーホールディングス株式会社
セイコーエプソン株式会社

セイコーホールディングス株式会社（社長 中村 吉伸）とセイコーエプソン株式会社（社長 碓井 稔）は、セイコーミュージアム（東京都墨田区）所蔵の、セイコーが世界に送り出した国産の腕時計 3 点が、一般社団法人 日本機械学会が認定する 2014 年度「機械遺産」に内定しましたので、お知らせいたします。



名 称	ローレル	初代グランドセイコー	クオーツ アストロン 35SQ
発売年	1913年（大正2年）	1960年（昭和35年）	1969年（昭和44年）
特 徴	国産初の腕時計	世界最高水準の精度を達成した腕時計	世界初のクオーツ式腕時計
開発・製造	セイコーホールディングス（株） （当時、服部時計店）	セイコーエプソン（株） （当時、（株）諏訪精工舎）	セイコーエプソン（株） （当時、（株）諏訪精工舎）

「機械遺産」は、日本の機械技術や産業の発展に重要な成果を示し、国民生活や文化に貢献した歴史的な意義を持つ機械関連技術遺産を、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本機械学会が2007年に創設しました。

「ローレル」「初代グランドセイコー」「クオーツ アストロン 35SQ」は、日本が誇る精密機械技術の発展過程を知るための象徴的な遺産として評価されました。いずれも、セイコーミュージアムで常時展示され、ご覧いただくことができます。

報道関係の方からのお問い合わせ先：

セイコーホールディングス（株）コーポレートコミュニケーション部 <tel:03-6739-9002>
セイコーエプソン（株） 広報 IR 部 <tel:03-3340-2637>

資料①—機械遺産認定製品の概要

・名称：時代を画した腕時計（3点）

- ①1913年（大正2年）発売—国産初の腕時計「ローレル」 (写真左)
- ②1960年（昭和35年）発売—世界最高水準の精度を達成した腕時計
「初代グランドセイコー」 (写真中)
- ③1969年（昭和44年）発売—世界初のクォーツ式腕時計
「クォーツ アストロン 35SQ」 (写真右)

- ・認定番号 : 第66号
- ・遺産の分類 : collection（保存・収集された機械）
- ・製造年 : 上記の発売年と同じ

・製品説明 **【詳細はこちら】**

① 1913年（大正2年）発売—国産初の腕時計「ローレル」

明治から大正にかけて、少量の腕時計が我が国に輸入されていたものの、まだ懐中時計が主流の時代でした。こうした中、セイコーはやがて来るであろう腕時計の時代を見据え、試作・研究を繰り返した結果、1913年、国産初となる腕時計「ローレル」を完成させました。

② 1960年（昭和35年）発売—世界最高水準の精度を達成した腕時計

「初代グランドセイコー」

「初代グランドセイコー」は1960年、セイコーとして最高の精度追求を目指して、組立・調整、外装仕様、検査などに当時の最高の技術・技能を盛り込んだモデルとして誕生しました。初代グランドセイコーはスイス公認歩度検定局のクロノメーター優秀級規格に準拠しています。1966年にグランドセイコー規格を制定しますが、これはクロノメーター優秀級を凌ぐ規格に作り込まれています。誕生から50年余りを経た現在も「初代グランドセイコー」シリーズは国産の実用時計の最高峰として世界各地で販売されています。

③ 1969年（昭和44年）発売—世界初のクォーツ式腕時計

「クォーツ アストロン 35SQ」

「クォーツ式腕時計」は、水晶に電圧を加えた際に発生する振動を利用した水晶（クォーツ）振動子を基盤部品とし、革命的な高精度を果たしました。この「クォーツ アストロン 35SQ」の発売を契機に、日本初の技術であるクォーツ式時計は劇的に普及し、世界中で正確な「時」を手にすることができる社会が生み出されました。現在世界で製造されている腕時計の約98%はクォーツ式です。

資料②一般社団法人 日本機械学会 機械遺産について

*概要

日本機械学会が 2007 年創立 110 周年の記念事業の一環として創設した事業で、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、毎年 8 月 7 日機械の日に日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage) として認定するものです。これまでに 61 点が選出されています。

*機械遺産に関する URL : <http://www.jsme.or.jp/kikaiisan/>

*機械遺産の目的と認定基準

歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage) について日本機械学会が認定する。

認定の指針として、下記に合致するものをいう。

- 1) 機械技術の「発展史上」重要な成果を示すもの(工学的視点から)。
- 2) 機械技術で「国民生活、文化、経済、社会、技術教育」に対して貢献したものの。

*機械遺産認定製品発売当時の主な出来事

1913 年	11 月	征夷大將軍徳川慶喜逝去(享年 77)
1960 年	9 月	日本でカラーテレビの本放送開始
	12 月	池田内閣所得倍増計画発表
1969 年	3 月	NHK-FM 放送、本放送開始
	5 月	東名高速道路が全面開通
	7 月	アポロ 11 号が人類初の月面有人着陸を果たす など

資料③セイコーミュージアムについて

セイコーミュージアムは、セイコーの創業当時(1881 年)からの歴史的な製品をはじめとする「時と時計」を研究する施設として、またセイコーブランドの情報発信基地として皆様に『時』を体験していただけます。

所在地 : 〒131-0032 東京都墨田区東向島 3-9-7

電話 : 03-3610-6248

開館時間 : 10:00~16:00(入館無料、要予約)

閉館日 : 月曜日、祝日、年末年始

ご予約方法 : ご希望のご来館日時をセイコーミュージアムへお電話にてお申し込みください。(TEL03-3610-6248)

お子様にもご理解いただけるように解説いたします。

URL : <http://museum.seiko.co.jp>